

平成 30 年度 自己評価結果公表シート

第二すみれ幼稚園

1、本園の教育目標

子ども達一人一人が楽しみながら思考力を高め、創造力や判断力を培う事につとめ、絵画・音楽教育、基礎的な体力づくり等の充実した保育内容で「明るいすなおな子ども」に育っていくよう日々の保育に取り組む
本園の教育目標

- 1、明るい豊かな心をもった子ども
- 2、「ありがとう」とすなおな心をもった子ども
- 3、どんなことにも負けない我慢強い子ども
- 4、健康で心身ともに活動的な子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領が改訂された事を考え、また自己点検や自己評価を実施する事によって本園での教育課程の内容を確認し教職員が共通の理解をはかり、教育の質を高める事で教育内容の改善に取り組む事を重点とする。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育者として子ども達の園生活における保育の質の向上を図る	各クラスごとに子ども達の成長に即した年カリ、月案、日週案を作成することで、見通しをもって保育を進めることが出来た。 色々な研修会に参加し、自園に当てはめ考え、職員間で話し合うことが出来たが、その積み重ねが重要なので、今後もより一層続けていく必要がある。
園の中の危険について、安全の再確認や点検の見直し	日々点検をしていたが、早急に修理する所があるのにそのままとなり、危険な箇所の改善まではいけなかった。 園庭や遊具の遊び方を職員で再確認し、日々声かけすることで、子ども達が気づけることも増えてきた。
発達障がい児への知識を増やし、特別ではなくそれぞれ子どもに合わせた豊かな保育ができるように見直す	研修への参加や日々勉強することで職員の知識を高め、子ども達によりよい豊かな保育が出来るようになってきた。しかし、同じ年齢でも毎年通用する保育はなく、一人ひとりの子どもに合わせた保育をしっかりと認識して取り組むことが大切である。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

話し合う時間が中々取れないこともあり、週一会議で行事や決め事の話をしてしまうことで、本当に必要な話が出来ないことがあり、時間の使い方など今後の課題でもある。また、月案、日週案を各クラスでしっかりと計画することで、見通しをもって保育を進められるようになり、無理なく普段の保育から導入することが出来、行事にもスムーズに参加することが出来たように思う。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園の中にある危険箇所についての確認や子ども達が園生活を過ごす中で安全に過ごせる決まりやルールについて取り組む	子ども達と遊ぶとき、掃除などをして環境整備をするとき等に危険箇所について認識する。子ども達にとって安全に怪我なく過ごせるのか？を一番に考え、出来る事から対処していく。特にブロック塀の再構築、耐震補強の工事、1階廊下の改良を大阪府、大阪市共々相談すべく準備中です。
クラス単位、学年単位、園単位など職員の連絡や話し合いをしっかりと持つことで、職員全員が認識をしっかりと持ち、保育の質の向上に取り組む	普段の子ども達の様子、行事について学年単位で話し合う機会を積極的に設けてみる。また、会議などで細めに話しをし、それぞれの状況を職員全員で認識把握する。子どもの自主性を育てるために絶えず子どもの行動を注視しながら、よりよい保育を目指す。話し合いでは言葉遣いに注意し、否定語は使わないように取り組む。
発達障がい児への知識を増やすことで、子ども達みんながよりよい豊かな園生活ができるように取り組む	研修や本、講演会など積極的に参加し、知識を増やすと共に、幼児の発達に即した指導計画、保育案をしっかりと作成する。そして、会議などを利用して他の保育者との連携をしっかりと持つことで、豊かな園生活の充実を図っていく。

6、学校関係者の評価

クラス、学年、園単位での共通把握認識を高めようとしている様子が伝わります。全職員での周知は安心、信頼の子供を送り出す事が出来、職員のみならず保護者の報告、連絡、相談も大切にしては養幼保の一体感があります。今後も益々の発展を期待しております。

7、財務状況

今年度は第二すみれ幼稚園が新制度に移行したため、収入状況は大きく変化している。収入の増加は人件費の増加を上回り、収支差額は増加した。しかし建物の老朽化に対応する必要があり、今年度はその手始めとして構造調査・耐震診断などを行った。財務状況は決して楽とは言えず、施設整備をどうしていくかという問題に悩まされている。